

櫻丸
被害賠償関係

0996

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

起案要覽

大正十三年一月十九日起案

起案者

櫻城

月

日發付

發付掛

(主務) 經理局長

第一課長

第二課長

第三課長

局長

官房

軍務

人事

艦政

機關

費務

經理

法務

技本

造兵

教育

臨建

水路

軍令

大臣

藤田

副官

藤田

第三課長

藤田

局長

官房

軍務

人事

艦政

機關

費務

經理

法務

技本

造兵

教育

臨建

水路

軍令

次官

參事官

櫻城

局長

官房

軍務

人事

艦政

機關

費務

經理

法務

技本

造兵

教育

臨建

水路

軍令

法務局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

軍務局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

仰裁

大正十三年一月十九日

大正十一年二月十五日香川縣鍋島燈臺沖

於テ第二十四潜水艦ト衝突破損セシ汽船

櫻城丸ニ關シ別紙ノ通補償願出ニ付審査ノ

官房第二二一席

一

二

0937

結果船主水村昌吉ニ對シ左記ノ通補償
方至當ト被認候ニ付補償可然哉
右仰高裁

左記

金七千二百二十九圓六十六錢

補償額

大正三年一月廿日合示濟

結

諸方公算、結算公算

補償金請求件

一、金七百圓百圓拾九圓六拾六錢也

但、大正拾陸年正月拾五日、私儀所有汽船櫻城丸が

茅葺船四潜水艇に衝突、為り破りタル損害額中

補償トシテ海軍側ヨリ支拂ヲ受クハ千金額

右請求仕候也

大正拾陸年正月拾六日

東京府豊多摩郡淀橋町字柏木

四百六拾七番地

舊汽船櫻城丸船主 水村昌吉

海軍大臣村上格一殿

閣下

任所変更御届


舊任所 東京市芝区三思園町外番地七番
新任所 東京府豊多摩郡滝橋町字楠木

四百六拾七番地

右之通り大正拾貳年拾月八日任所変更致候條
此段及所届候也

大正拾貳年拾月八日

右

水村昌吉 

海軍省

所中

次官

海務局長

軍務局長

經理局



大正十二年十二月二十五日

法務局

第一課長

櫻城丸船主ヨリノ損害補償ノ歎願ニ對シテハ補償

トシテ金七千二百二十九圓辛六錢ヲ支拂ヒ可然モ

第一課長

第二課長

本件衝突ノ原因ハ主トシテ左ノ二點ニアリ

一、櫻城丸カ鍋島水道ノ中央否寧口丸側ニ偏セル航

路ヲ採リタルコト (一一八頁表第一行、櫻城丸一等運

轉士聽取者)

二、潜水艦カ南87°西ノ針路ト同一線上ニ櫻城丸ヲ

海軍

軍務局受

12.12.27

1003

認ノ更ニ其ノ右舷燈光ヲ明識シ左舷燈光ヲ見
 失ハントスルニ至リシコト(一八頁表^表三行、潜水艦長報
 告書)アリトスルモ當時兩船ノ對勢ハ殆ト同一線
 上ニ對向シ居タルモノト認メ得ヘク此ノ如キ對手
 船ノ針路疑ハシキ場合ニハ寧ロ衝突豫防法ノ
 原則ニ從ヒ右側航過ノ手段ニ出ツルヲ妥當トス
 ヘキヲ左側航過ニ變針セシメト
 右ノ理由ニ基キ潜水艦ニ六分、櫻城丸ニ四分ノ過失アリト
 認メラルヲ以テ潜水艦ノ損害額四万二千二百八十圓三十一錢ト
 櫻城丸ノ損害額四万二千四百四十圓三十一錢トヲ對比シ海軍側
 ヨリ櫻城丸船主ニ金七千二百九十圓六十六錢ノ補償
 ヲ為スヲ相當ト思料ス

(子)

(富井納)

海軍側損害高 42,286.310

船主側損害高 40,240.300

損害高合計 82,526.610

海軍側六分負担 $82,526.610 \times 0.6 = 49,515.966$

海軍側、損害高ヲ減じ加へ $49,515.966 - 42,286.310 = 7,229.656$

即海軍側、船主ニ補償スル金額 7,229.656



(小 張 紙)

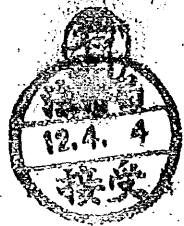
總務局長

總務局長

經理局長

謝 願 書

大正拾壹年貳月拾五日 拙者所有汽船櫻城丸が航
 前國若松港より大坂へ向へ航行、途次横須賀港より
 吳港へ向へ航行、潜水艦貳拾四號ト衝突、爲り、多
 大ノ損傷ヲ蒙リ、櫻城丸船長カ附近ノ淺瀬ニ繋り
 上り沈没ヲ免レ、保り直々ニ帝國海軍株式會社ニ
 依頼し引揚救助ニ從事セシメ、急事大坂港へ回航、上陸
 繕ニ着手シ、此間約貳ヶ月、日子ヲ費シ、漸ク完成セリ
 而シテ本衝突ノ可否ハ當時本船當道臺等運轉士菅我荒次
 カ高等海貨審判所ニ於テ決裁書ヲ所賢讀マシ、明カニシテ
 只ノ臺等運轉士カ達力、停止カ遅シタルノ故ヲ以テ譴責セラレタル
 二過サレザリ



汽船櫻城丸一昨大正拾年拾月購入修理ヲ加ヘ運航ニ
 從事シテ一日高ク浪キ折柄不幸ニ本衝突事件ヲ招キ
 金四萬圓百四拾圓迄於錢也、歎損ヲ蒙リタリ夫レカ爲テ弱者
 ハ債権者ヨリ汽船櫻城丸ヲ讓渡セシメテ悲慘ノ境遇ニ陥リ
 何卒此際格別ノ御詮議ヲ以テ叙上損害額ヲ填補アラシ
 事ヲ伏シテ惘願ニ別紙高等海質審判所裁決書相添ヘ與段
 艱願仕候

恐惶頓首

大正拾年 癸月 廿拾四日

東京市芝區三田四國町貳番地七號

舊汽船櫻城丸船主

水村昌吉



二行 (北内印)

海軍大臣男爵加藤友三郎殿

閣下

汽船櫻城丸損害金内譯

一金四萬前百四拾圓共拾錢也

内譯

(1) 金六千共百貳拾五圓共拾四錢也

汽船櫻城丸救助費及回航費合計金壹萬

貳千圓ノ内株者負担分トシテ帝國海軍

株式會社ニ支拂シテ金額(現額金五千六百

七拾四圓六拾六錢ノ神戸海上運送火災保

險株式會社ニ於テ支拂セリ)

(2) 金四千前百六拾九圓五拾錢也

汽船櫻城丸入渠及修繕料

(3) 金四千前百五拾圓五拾錢也

ホーコンニ 諸ノ込ニ及リパー 張替料

(4) 金貳千六百四拾六圓拾六錢也

船具ノ修補并ニ修繕料

(5) 金壹千零百六拾五圓也

船具補填料

(6) 金貳千圓也

右ハ流失セル船具修繕ナレバ未タ購入セザルナリ

(7) 金六千貳百五拾圓也

大正拾三年年首月拾五日ヨリ今年四月貳拾八日

至ル船賃ノ給料及食料諸雜費

(8) 金貳千五百圓也

汽船櫻城丸衛突座礁ノ爲メ船主ノ旅費

12

宿泊料補欠人、對る報酬

(9) 金七千五百圓也

強定利益(大正格當年計月拾五日より全年)

四月十八日迄、於るに營業上取得する利益)

(10) 金貳千貳百貳拾貳圓八拾錢也

各項、對るに年五分(日銀金庫貸付金種大宅)

、割合、利息(1)(1)(1)、各項より控除せり

別紙計算書、通)

右之通、相違益之便也

大正終算年拾月計拾貳百

東京府下豊多摩郡流橋町三丁目

倉根城丸加屋

水村昌吉

才望

委任狀

拙者義今般都合ニヨリ神戸海上運送火災保險株式會社ヲ部理代人ニ定
左ノ權限ノコトヲ代理致候也

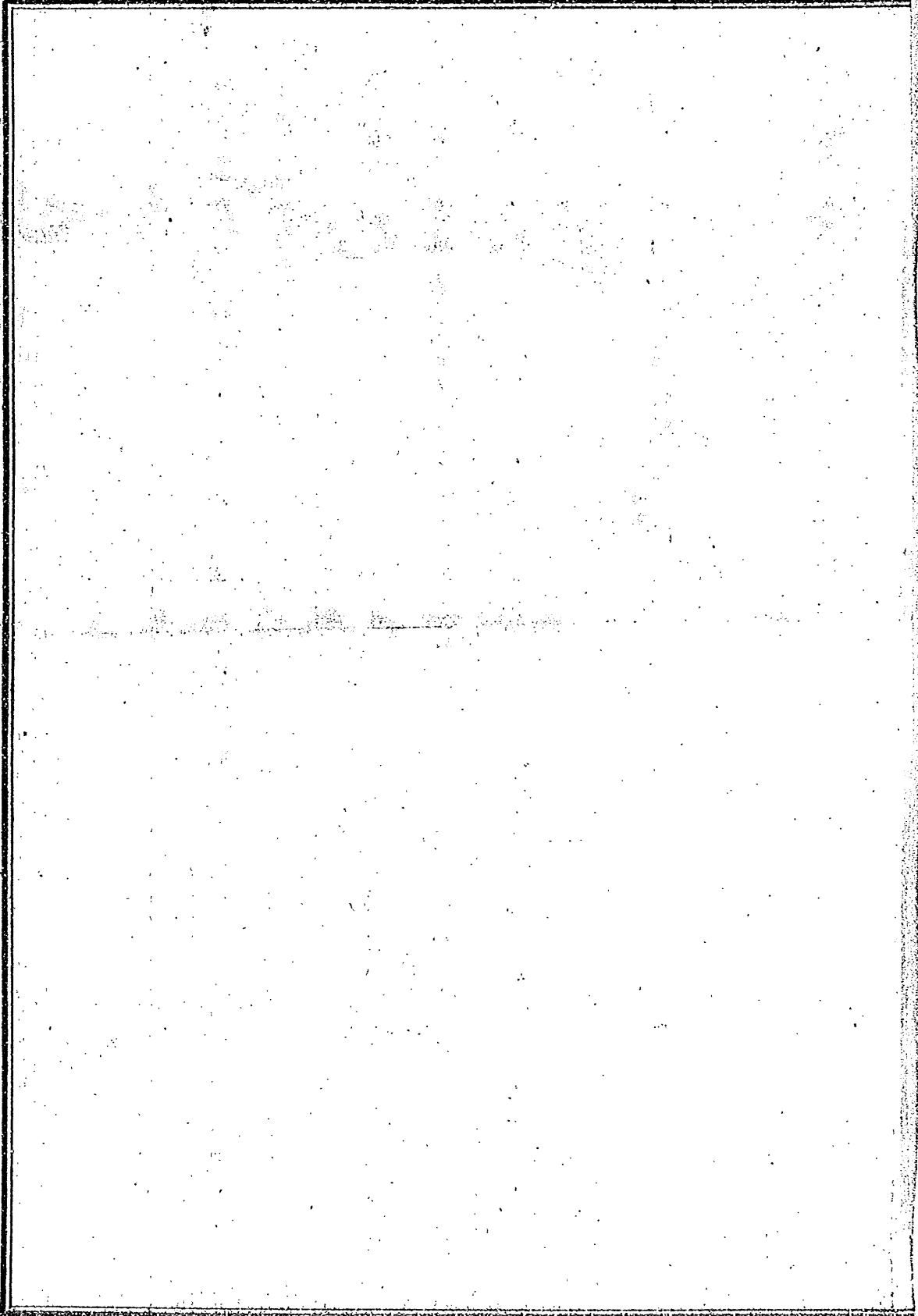
汽船櫻城丸大正拾壹年二月拾五日瀨戶内海鍋島附近ニ於テ潜水艦ト衝突致シ浸水甚敷キ爲メ附近淺瀬ニ乗揚ケ候ニ就テハ之カ調査救助・救助者ノ選定・救助費ノ決定及支拂並ニ共同海損精算ニ關スル一切ノ件

右委任狀仍如件

大正拾壹年貳月拾七日

東京市芝區三田四町三番地七号

大正

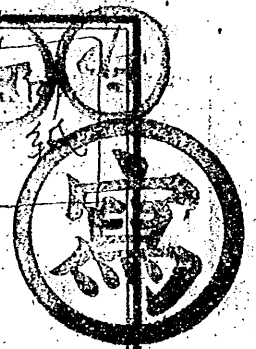


1015

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



神戸海上運送火災保険株式會社

救助費の取扱い

本主事村長古代理船戸海上運送火災保險株式會社（以下甲）甲ト稱ス
 等國海事株式會社（以下乙）乙ト稱ス
 一 船内内務編員並船長船員等ニ由リ船沈没セシル汽船機城丸（以下甲）本船ト稱ス
 一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ
 HO GREES HO PAY PRINCIPLE

一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ
 一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ
 一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ
 一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ

一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ
 一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ
 一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ
 一 船員及船客救助ニ關シ救助成功物主義ニ

1016

(10. 11. 5.000)

第九條 乙が前條ノ規定ニ據リ本船救助ニ成功セタル場合ニハ本船ノ引渡

ト同時ニ甲ハ乙ニ救助報酬金高貳千圓也ヲ交付スルノトス

但右救助料ハ船體及積荷ヲ害ムルノトス

第十條 本船救助不成功ニ了リタル時ハ甲ハ乙ニ何等ノ報酬金ヲモ交付ス

ルモノトス

第十一條 第五條ノ期間ヲ經過スルモ本船救助ノ見込立タサル時ハ甲ハ乙ニ

何等ノ何物モ付テ本船救助ノ報酬金ハ權利ヲ有ス

第十二條 第五條ノ期間中ニ本船救助完了セタル場合ト雖乙が船體ニ其ノ作

業ニ從事シ且其ノ救助作業ノ工程者セシ運移セル場合ニ於テハ甲ハ乙

ニ對シ更ニ相當ノ期間ヲ與フルモノトス

第十三條 本船救助ニ關シ本船船員ノ協力ヲ要スヘキ作業ニ關シテハ甲ハ乙

ニ代理トシテ乙ノ請求ニ應ジ無償ヲ以テ本船船員ヲ助力セシムルモノト

スルヘキ又救助作業中必要ナル時ハ本船船員ノ船外使用ヲ許スモノトス

ルモノトス

第十四條 甲ハ本船救助ニ關シ何等ノ何物モ付テ救助作業ノ状況ニ關シ乙ノ作業



神戸海上運送火災保險株式會社

明治三十二年四月八日

右記の船舶ノ運送トシテ本會社ニシテ作底シテ双方同名同額ノ上各股額ヲ分有スルモノ也

大正十二年四月八日

代辦 橋本丸船主 水村 爲吉 代理

神戸市明石町十九番地

神戸海上運送火災保險株式會社

支取人 小 野 豊 徳 印

神戸市北長狭通五丁目

帝國海運株式會社

常務取締役

小野 豊 徳 印

(10. 11. 5.000)

1018

麻呂書二冊送火災財録友會

1019

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

神戸市北長狭通五丁目七十七番屋敷
帝國海事株式會社

(登録受電略號カウベテカ) 電話元町(一六二〇番)
 三三三番

一 汽船 櫻 丸 記

大正拾壹年貳月拾五日讚岐國鍋島燈臺附近ニ沈没シタル處其船體保險者神戸海上運送火災保險株式會社ノ依頼ニヨリ別紙救助請負契約書ノ條項ニ從ヒ之ヲ救助シ貳月貳拾日浮揚セシメ同月貳拾參日當社救助船來島丸ヲ以テ曳航シ同日大阪安治川ニ廻航シタル事ヲ證明候也
 大正拾貳年拾月貳拾日

神戸市北長狭通五丁目

帝國海事株式會社

支配人 **向本徹支**

門司出張所 門司市東本町二丁目 (特設電話四一三番) (登録受電略號モジテカ)

櫻島丸取扱費 ¥12,000. 20,000

船賃 (按備状盤 2 船 4 年 1 隻) ¥15,000 - ¥7,093³²

積荷 (嘉和粒巴洛林, 價格) ¥8,853²⁰ - ¥4,186⁹⁵

運賃 (@ ¥145 per 1 ton) ¥1,522⁵⁰ ¥719⁷²

¥28,376⁰⁰ - ¥12,000

Rate 4728877.

船主負担自費付代金 ¥1,418⁶⁶

運賃 272 1719⁷²

¥2,138³⁹

(10,000/20,000)

1021

水村昌吉殿



第三九八八號 承 諾 狀

船舶保險證券第真〇六八號

一 汽 船 櫻 城 丸

右ハ從來田中丸善藏殿御所有ニ候處大正拾年拾月拾四日
貴殿ノ御所有ト相成候旨ヲ以テ兼テ當會社ニ於テ契約中ノ保險契
約ハ保險證券並ニ承諾狀面記載ノ各條項其儘貴殿ニ於テ御繼承ノ
義連署ヲ以テ御請求相成當會社正ニ承諾候也

大正十年十一月十六日

神戶海上運送保險株式會社

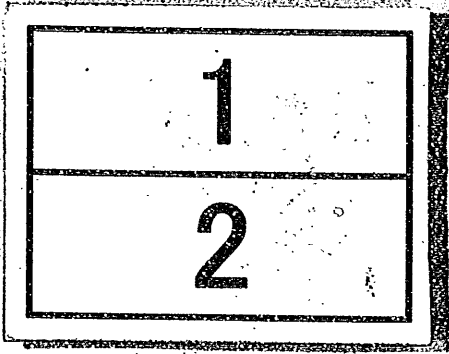
水村昌吉殿



1022

(9. 5. 4800)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

櫻城丸

一本船検査上更ニ保険金額ヲ指定スル迄ハ本証
券面記載ノ保険價額ヲ金額萬五千圓也、保険
金額ヲ金額萬圓也ニ変更ス、

大正十年十月十六日

神戸海上運送火災保険株式會社

神戸海上運送火災保険株式會社

(12. 11. 10.000)

1025

證 明 書

大正十一年二月十五日瀬戸内海鍋島附近ニ於テ潜水艦ト衝突沈没シタル汽船櫻城丸救助ニ關シ御請求ニヨリ左ニ證明候也

汽船櫻城丸船主タル貴殿ト帝國海軍株式會社トノ間ニ締結セル本船救助請負金額ハ金壹萬貳千圓也ニシテ救助成功ノ結果當社ハ當社ト貴殿トノ間ニ締結セル船体保險契約ノ約款ニ照シ當社ノ負擔額金五千七百七拾四圓六拾六錢也ヲ支拂タルコトヲ證明ス

大正十二年十二月十四日

神戸海上運送火災保險株式會社

支配人 小崎 豊 隆

水村 昌 吉 様

神戸海上運送火災保險株式會社

No.

全四所貳百五拾九第五拾號也

證明書

俱之汽船櫻城丸ノ梁材及汽機料

甲板部板同部共

右之通之正仕柳相度候事係証致候也

大正拾陸年五月拾五日

大阪市西區南福崎町(電報掛橋東五丁)築港

占部鐵工造船所

電話長西二五九八番

櫻城丸船主

水村昌吉殿

余白

大正拾陸年拾月廿九日

大阪市西區福崎町一番地

造船及修理
汽機汽鐘製造
引揚船渠業

占部鐵工造船所

電話園西二五九九番

1027

陸海機械汽罐各種製造



奥谷鐵工所

大阪市西區泉尾町五九四番地

電話櫻川二四三一番

No.

大正 年 月 日

證明書

金明子君首呈控母老松氏也

大正十五年三月後取御城元子八張者及本堂

打込込金

右決議以美正十五年四月十五日呈御覽也

相違子方陳尚之對老松氏者其印堅去殿

水村尚志氏呈出遺元子以今更領取者

作別紙年久候右證明候也

大正十五年五月八日

大阪市西區泉尾町
五九四番地

奥谷鐵工所

電話櫻川二四三番



奥谷栄七郎

No.

月 日

大正拾陸年五月拾參日
大正拾陸年拾月廿日

證明書

但汽船橋城丸入槩以來各航具及修繕之圖
各埠船代

右ノ通り支坤止相受責事保證致言也

大正拾陸年五月拾參日

橋城丸船主

水村 昌士郎 殿

大正拾陸年拾月廿日

大阪市西區九條南通四丁目

鐵鑛船舶
五業社
船務部

谷川商會

電話西五九六番
振替大阪三〇五四六番

店主 青木 正夫



1029

船舶鐵工用品
 鑄山造船用品
 械機工具一式



合資會社
木部船具店

大阪市西區築港千舟橋停留所東
 (電話西二五四番)

No.

大正 年 月 日

證明書

金起降券附分指五名也
 但し汽船機械形船券及汽船船和付入代金
 大正十五年五月申付入
 以上金額其の後再三御請求申上候(共更之御交知)
 直接傳問是非至急御支拂相成度願上候
 付付入不此候及証明候也
 大正十五年五月八日
 大阪市西區八幡屋所百四拾番地
 合資會社 木部船具店
 代表取締役 木部重吉

1030

流失品及沈没ノ爲メ海水ニ浸蝕サレ使用耐カ
 属具品目録

甲板部

品名	数量	事由	見積價格	新規價格
6 マニラロープ	巻九	甲板積上リカガ 沈没ト共ニ流失	巻〇〇〇	巻五〇〇
帆布米周製	前反	全上	巻八〇〇	巻八〇〇
2/2 ヲヤロープ	巻九	全上	前〇〇〇	前五〇〇
全上	前九	海水ニ浸リ 使用耐カハス	四〇〇〇	五〇〇〇
ターポレリン	巻九	流失	四〇〇〇	四五〇〇
2 カバーワイヤー	前本	本船ニ備ヘテ 多ク使用破損	巻〇〇〇	巻〇〇〇
ボートクラック	前本	流失	巻〇〇	六〇〇
スナッチブロック	前個	全上	四〇〇	五〇〇

アンカー	ボートオール	スタリオン	ベンチレーターカバー	コンパニオンカバー	レフトタレドライン	火災用バケツ	救命浮環	ストローブ及煙突	タローロープ	ガイテール	ボートフック
巻	巻	巻	巻	巻	巻	五	亂	巻	巻	巻	巻
機	本	放	放	放	組	個	個	組	丸	組	本
救助の爲のワイヤ切斷紛失	全上	全上	全上	全上	全上	全上	流	浸水の爲の破損使用に付ハズ	甲板に積りアライメント破損し其の流失	救助の爲の使用破損使用に付ハズ	流
失	失	巻	巻	巻	五	亂	巻	巻	亂	巻	失
失	失	失	失	失	五	亂	巻	巻	亂	巻	失
失	失	巻	巻	亂	巻	巻	五	五	巻	巻	五
失	失	巻	巻	亂	巻	巻	五	五	巻	巻	五

12
渡橋（北内製）

1032

ウエス	種油	外部油	機関室時計寒暖計	ペンキ	パッキンク	ハンマー	ヤスリ 平丸角板合	吹子	機関室ウインドセー	機関部	傳馬船附属品共
拾ノ目	貳罐	四罐	貳個宛	貳罐	拾五斤	壹個	拾個	壹個	壹個	流失	流失
海水に浸使用流	基上	破損流失	海水に浸し使用 海水に浸し使用	口用子供海水に 浸し使用耐ハス	海水に浸し使用 耐ハス	全上	沈没し流失	機関室にアリタレ 沈没し使用不欠	流失		
七〇〇	壹八〇〇	壹七〇〇	壹五〇〇	壹八〇〇	壹八〇〇	五〇〇	八〇〇	壹〇〇〇	五〇〇〇		貳〇〇〇
七〇〇	壹八〇〇	壹七〇〇	貳五〇〇	貳〇〇〇	貳〇〇〇	五〇〇	壹〇〇〇	壹〇〇〇	五〇〇〇		壹〇〇〇

ボイロ油

冬 罐 破 損 流 失

美 〇 〇 〇

冬 〇 〇 〇

見積價格金冬千圓也

右ノ通相遠益之候也

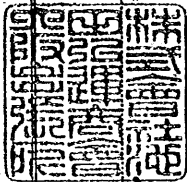
大正拾貳年拾貳月拾五日

証明書

一、汽船櫻城丸ヲ大正拾年拾貳月船主水村昌吉ノ
取扱ヒ代理委任オ受ケ居候節ハ毎月船員ノ
給料及食料ヲ合セテ金貳千壹百圓ニテ船長ニ
委セ置タリ。尚ホ此外甲板部機関部ニ要スル
雜費六七百圓ヲ要シタリ。

一、前記汽船ガ大正拾壹年拾月拾五日瀬戸内海
鍋島燈臺附近ニ於テ潜水艦ト衝突沈没
シタル以後要シタル費用内補佐人田中久男ニ
報酬トシテ金六百圓ヲ與ヘタリ。

右証明候也



池田運商會大阪出張所
主任 山岸直胤

大坂市四區船場四十四番地
池田運商會大阪出張所
電話一〇九番

神戶市港岸通三丁目
池田運商會
電話三〇一五番
電話二九三三番

1035

出張旅費、滞在宿泊料計算書

但、日暮部紙株株式會社務務規定據

一金壹千九百圓也

内譯

金拾八圓六拾五錢也

金拾圓六拾七錢也

金拾圓八拾錢也

金拾圓參拾錢也

金拾八圓六拾五錢也

金拾八圓六拾五錢也

金拾八圓六拾五錢也

金拾八圓六拾五錢也

大正九年三月廿六日、舞臺水村品支費、東京
系大坂三井汽船會社、

全、十九日大坂着、大坂、三井汽船汽船係、

全、十九日大坂着、大坂、三井汽船汽船係、

全、十九日大坂着、大坂、三井汽船汽船係、

全、二十日大坂着、東京、三井汽船汽船係、

全、二十日大坂着、東京、三井汽船汽船係、

全、二十日大坂着、東京、三井汽船汽船係、

全、三月八日東京着、大坂、三井汽船汽船係、

金壹百八拾八圓也

合年三月八日了合月中五日迄八日間

金共百五圓五拾錢也

合年合月十九日了合三十一日迄十三日間

金共百九拾九圓五拾錢也

合年四月六日了合三十一日迄廿七日間

金四百六拾八圓也

合年四月二十日了合五月十五日止三十一日間

小計金壹千二百拾九圓五拾錢也

右ノ通相違等ノ修也

大正十二年四月廿九日

船政局長 堀江 主

水村 昌 吉

汽船櫻城丸瀬戸内海船島燈台附近に飛り

潜水艇上衝突為沈没救助修繕其他為出張

一 船乗村島者大正二年二月二十三日午在七時東京必發全々大坂着

直、代理店着、船中傷險契約者見、神戸海上傷險會社に對し

救助其他、契約より為し、日夜奉取遺難地、出張ス

一 左十八。丸亀。若野備後縣知事、備中本船、午在島半、着

附近與島、船貨一同ト宿ス

一 左十九。同所出着大坂ヲ陸ラ二十一日東京着

一 左二十。同所出着大坂と向リ二十七日大坂着同二十七日東京出着

二十七日東京ト着

一 三月八。東京出着大坂と向リ同日東京着、東京ト歸ル

一 全中、東京出着大坂と向リ同日三連日東京ト歸ル

一四月二日。高系致大坂の向り

一五七日。大坂藩兵候守府之司令長官村上大将閣下リ
訪問之。先該長正木義太郎より書面ニ接見リ以テ各申
為ノ出張ニ付。吳守府等。日曜ノ十日。以テ海在十七
所用リ瀋々出立ナリ。大坂、の向り

一四月二十日。松田出立。高系、向リ三十一日。唐系より

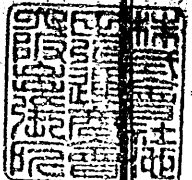
一四月二十日。高系出立。大坂、向リ二十五日。大坂藩。五月十日。高系

一五月十日。唐系、の向り

一五月二十日。高系出立。大坂、向リ六月十日。高系

舊汽船櫻城丸船主水村昌吉ヨリ証明ヲ依頼ニ致候
處右之通ニ相違無之此ニ証明致候也

大正拾貳年 三月廿日



主任 山岸直胤



(北西製)

大正十一年十二月

日本郵船株式會社社員旅費規則

1042

社員旅費規則

明治四十五年三月社規第二號、大正五年三月社規第一號、大正八年十二月社規第二五號、大正六年五月社規第五號、大正十一年五月社規第一二號、同年十二月社規第二三號

第一條 社員社用ニ依リ本邦及東洋諸國ヲ旅行スルトキ

ハ本規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

前項以外ノ外國ヲ旅行スルモノノ旅費ハ其都度別ニ之ヲ定ム

第二條 旅費ハ

六等トシ別表ニ定ムル所ニ

從ヒ鐵道乘車賃、船賃、鐵道ノ便ナキ地方間ニ於ケル車馬賃ノ實費並ニ日當、休泊料及食卓料ヲ支給ス

第三條 日當ハ旅行日數ニ應シ、休泊料ハ宿泊度數ニ應シ、

食卓料ハ汽車又ハ食事ノ供給ナキ船舶乗込中並ニ宿泊ヲ要セスシテ單ニ食事ヲ要シタル場合食事度數ニ應シ

各之ヲ支給ス

汽車並ニ船舶乗込中ハ休泊料ヲ支給セス

第四條 臺灣、朝鮮、樺太ヲ旅行スルトキハ休泊料、食卓料ヲ

各五割増トス

第五條 本邦以外ノ東洋各地(蘇西以東)ヲ旅行スルトキハ

日當休泊料、食卓料ヲ各倍額トス但社船乗込中ハ此限ニ

アラス

第六條 海陸社員任地引拂上京ヲ命セラレ著京後待命滯

在シタルトキ若クハ著京後轉任ノ辭令ヲ受クルモ尙社

用ノ爲メ滯在シタルトキハ日當ヲ支給セス單ニ休泊料

ヲ支給ス

ニ

1044